

(5) 東 海



東海地域では、景気は力強く回復している。

- ・ 鉱工業生産は堅調に増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

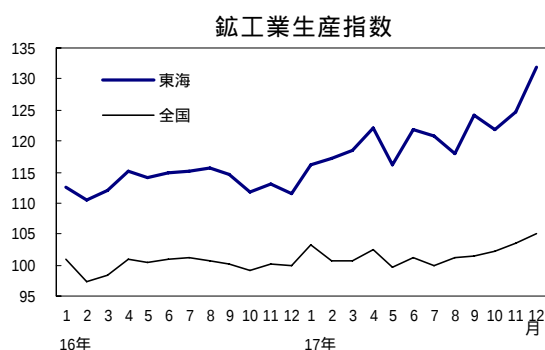
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 17 年 11 月）	今回（平成 18 年 2 月）	
住宅建設	増加	大幅に増加	↑

1 . 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は堅調に増加している。

輸送機械は、完成車の国内向けは伸び悩みがみられたものの、海外向けが北米向けを中心に好調だったことなどから、増加に転じている。なお、自動車部品も輸出が好調だったことから、増加している。一般機械は、金属工作機械が国内外の一般機械向け、自動車関連向けを中心に好調だったことなどから、増加している。電気機械は、内燃機関電装品が自動車関連向けを中心に増加するとともに、制御機器も自動車関連、半導体関連向けを中心に高水準で推移したことなどから、増加している。窯業・土石は、ガラス・同製品が自動車向けを中心に増加したものの、陶磁器がタイル・飲食器を中心に低調に推移したことなどから、おおむね横ばいとなっている。化学は、汎用品の一部に生産調整の動きがみられたことなどから、減少している。電子部品・デバイス、半導体素子・集積回路が携帯音楽機器向けを中心に好調に推移し、液晶素子も好調だったことなどから、大幅に増加している。



(備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成17年12月の東海は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

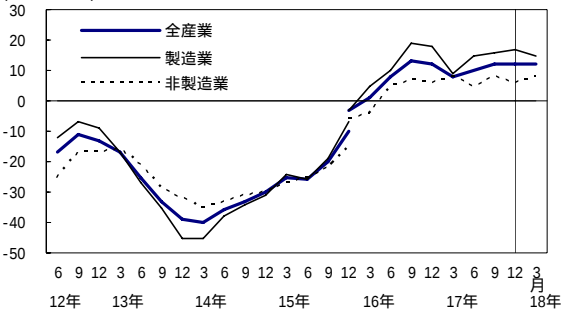
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7～9 月期	10～12 月期	10～12 月期	10～12 月期
輸送機械	33.9	▲4.8	2.1	2.5	19.0
一般機械	11.3	▲0.3	5.2	8.0	2.6
電気機械	7.3	2.6	1.6	4.6	▲8.7
窯業・土石	6.1	▲0.1	▲0.8	▲0.8	▲0.7
化学	5.4	▲1.2	▲1.2	3.0	▲6.0
鉱工業	100.0	0.8	4.2	4.1	1.0

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 10～12月期は速報値。
3. 生産指数は東海。出荷、在庫指数は中部。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

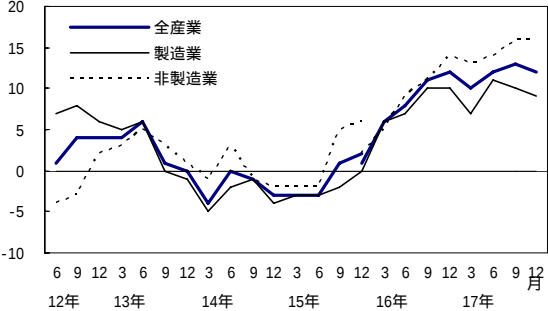
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



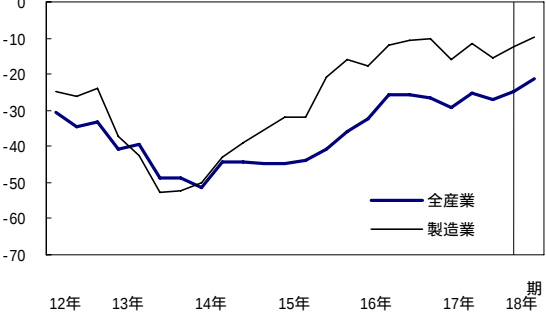
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。18年3月は予測。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。18年 期は見通し。
中部4地区。

景気ウォッチャー調査 (1 月) [企業動向関連 (現状)]

「国内販売は、低価格化傾向や需要低迷などから横ばいとなっている。ただし、海外販売は引き続き堅調に推移している (電気機械器具製造業) 」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

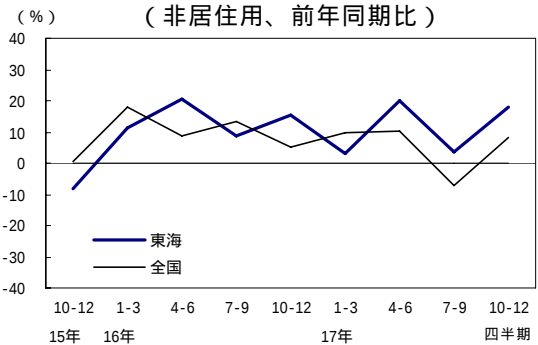
(3) 17 年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (12 月調査)]

	(前年度比、 %)	
	16 年度実績	17 年度計画
全 産 業	9.6	16.5 [14.4]
製 造 業	22.6	25.1 [21.8]
非 製 造 業	▲2.8	6.0 [5.3]

(備考)[]は前回 (9 月) 調査結果。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに回復している。

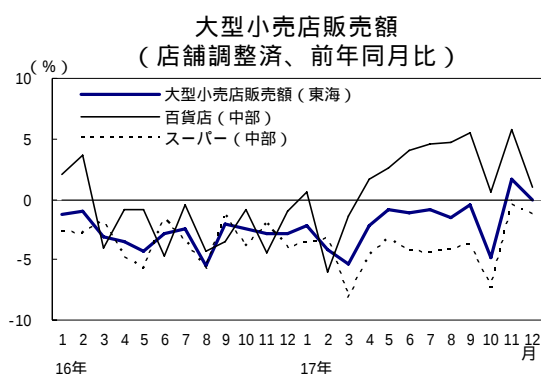
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は、改装効果、催事効果などから飲食料品が前年を上回るとともに、増床効果もみられたことなどから、前年のプロ野球関連セールスの反動を抑え、全体でもわずかに前年を上回った。11月は、中旬以降に冷え込みが強まり、冬物衣料品が好調だったことに加え、歳暮商戦も堅調だったことなどから、全体でも前年を上回った。12月は、大雪による影響が一部にみられたものの、引き続き、冬物衣料品が好調だったことなどから、全体でも9か月連続で前年を上回った。なお、名古屋市内主要5百貨店の1月の売上高は、前年同月比で6.3%増となっている。

スーパーは、気温の低下に伴い、衣料品が11月以降、2か月連続で前年を上回ったものの、主力の飲食料品が前年を下回ったことから、全体では期間を通じて前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

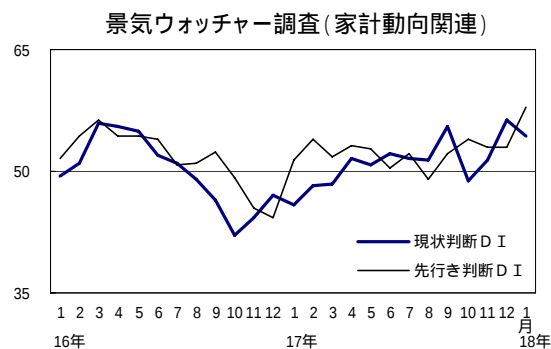
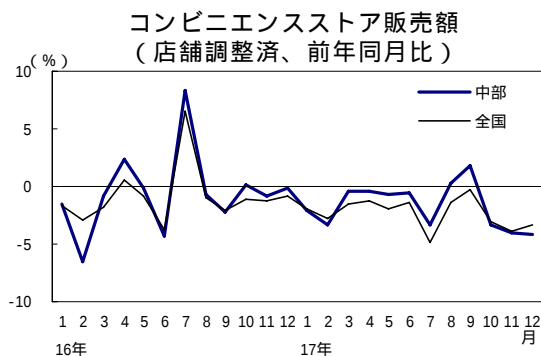
「パソコンの春モデルの価格設定は高くなっているが、売れ筋はより下のランクの商品に移り、単価上昇にはつなげていない。販売台数は前年同月よりも減少している(家電量販店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同月比、%)

	17年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	▲3.8	▲1.3	▲1.0	▲1.0
百貨店	▲2.0	2.8	4.9	2.3
スーパー	▲4.9	▲4.0	▲4.2	▲3.0
コンビニ	▲1.9	▲0.5	▲0.5	▲3.9
景気ウォッチャー	47.5	51.4	52.8	52.2

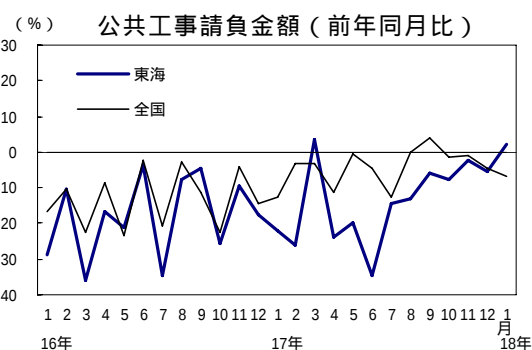
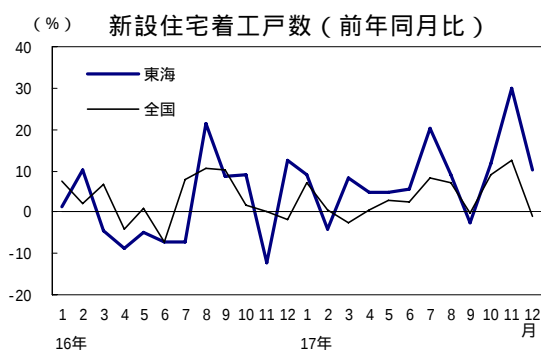
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。
百貨店、スーパー、コンビニは中部地区。
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの
3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

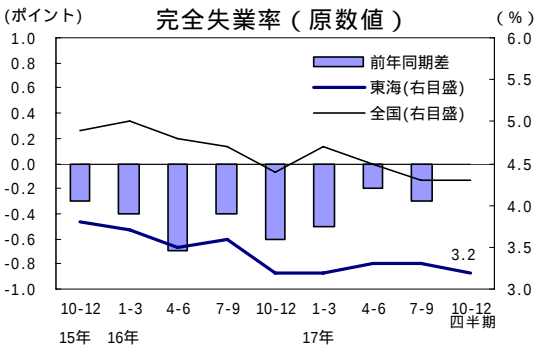
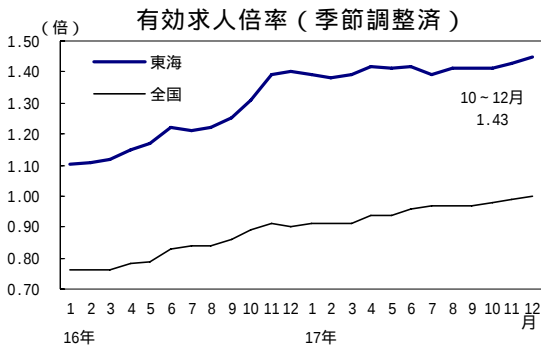
持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は17年度累計でみると前年度を下回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は着実に改善している。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期と同水準となっている。

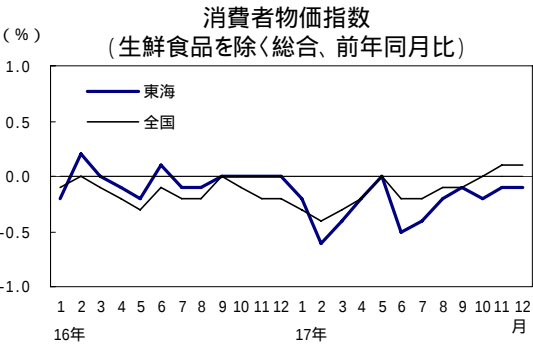


景気ウォッチャー調査（1月）[雇用関連（現状）]
「求人数の増加と年齢条件の緩和を背景に、採用者数は増加している。中高年齢層の採用者数も増加している（職業安定所）」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、負債総額は減少しているものの、件数が増加している。
(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	17年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	18年1月
倒産件数	333	344	301	342	89
(前年比)	▲0.9	21.6	3.8	5.2	▲22.6
負債総額	2,480	1,656	1,308	1,470	232
(前年比)	77.1	88.4	22.4	▲53.2	▲84.9



- 景気ウォッチャー調査（1月）[合計（特徴的な判断理由）]
<現状>
・ボーナスが平均的に増えていることに加え、株価の上昇で直接関係のない人も雰囲気的に良くなっている。また、消費税率の上昇を予想して、その前に住宅を購入しようと検討する人も増えている（住宅販売会社）。
<先行き>
・当地域では、正社員採用の引き合いが増えている。人材派遣業界は全体的に人手不足にあり、今後は待遇の改善も見込まれる（人材派遣会社）。

